



おひさまだより

2021. 12. 8

認定こども園せんにしの丘

風が冷たく寒さを感じる季節となり、早いもので今年もあと1ヵ月となりました。この時期は嘔吐・下痢の症状や、発熱も多くなり、冬の感染症の感染拡大も心配される毎日です。

『手洗い・うがい・咳エチケット』を習慣にして、年末年始を元気に迎えられるようにしましょう。

インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症に負けないで!!

寒さとともに、インフルエンザが流行る時期です。今月の保健指導では「免疫戦隊 まもるんジャー」を登場させ、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症の症状や予防法について楽しく学べるようにお話ししました。感染症予防には、手洗い・うがい・咳エチケットが大切!! 感染症にかからないためにも、手洗い・うがい・咳エチケットを習慣にしていきましょう。

インフルエンザと風邪の違い

	インフルエンザ	風 邪
発 病	急激	ゆっくり
発 熱	39~40℃くらいの高熱	高くても38℃くらいまでが中心
症 状	突然の高熱・咳・鼻水・全身倦怠感・関節痛・頭痛など	上気道症状(鼻水・くしゃみ・のどの痛み)が中心
合併症	中耳炎・熱性けいれん 肺炎・気管支炎・急性脳症など	ほとんどない
発症状況	流行性がある(11月下旬~3月上旬くらい)	流行性はない

インフルエンザはどうやってうつるの?

飛沫感染と接触感染の2種類があります。

飛沫感染・・・感染した人が咳をすることで、飛沫に含まれるウィルスを別の人が口や鼻から吸い込んでしまい、ウィルスが体内に入り込みます。

接触感染・・・感染した人が咳を手で押さえた後や、鼻水を手で拭いた後にドアノブやスイッチなどに触れると、触れた場所にウィルスを含んだ飛沫が付着することがあります。その場所に別の人が手を触れ、さらに手で鼻、口に再び触れ、粘膜などを通じてウィルスが体内に入り感染します。

インフルエンザから身を守るために・・・[インフルエンザ予防5か条]

- ① 石けん手洗い・うがい・咳エチケットをしっかりとしましょう。
 - ② 適度な加湿、換気を心がけましょう。空気が乾燥すると感染しやすくなります。室温は20~22℃、湿度は50~60%に保ち、換気は1時間に1回、2ヵ所を開け、空気の通り道をつくります。
 - ③ 早寝早起きをし、睡眠を十分とりましょう。
 - ④ 3食きちんとバランスのとれたものを食べましょう。
 - ⑤ 外遊びなどで身体をしっかりと動かして、体力をつけましょう。
- ※インフルエンザが流行してきたら、不要不急のときはなるべく人ごみへの外出を控えましょう。



[咳エチケット]

インフルエンザに感染すると、熱が下がったあともインフルエンザウィルスは体内に残っています。周囲の人への感染を防ぐため、くしゃみや咳が出るときは、咳エチケットに気をつけましょう。

○マスクを着用する・・・鼻と口の両方を確実に覆い、正しい方法で着用しましょう。

○周囲の人からなるべく離れる・・・くしゃみや咳の飛沫は、3m~5m飛ぶと言われています。

○口と鼻を覆う・・・周囲にかからないよう顔をそらせ、ティッシュなどで鼻と口を覆う。

○すぐに捨てる・・・口と鼻を覆ったティッシュは、すぐにゴミ箱に捨てましょう。

○こまめに手洗い・・・くしゃみや咳を押さえた手から、周囲の物にウィルスを付着させないため、こまめな手洗いを心がけましょう。



インフルエンザの出席停止期間について

インフルエンザは、厚生労働省の「保育所における感染症対策ガイドライン」により、「発症した後5日を経過し、かつ解熱したあと3日を経過するまで」は出席停止となります。

※発症した後5日とは・・・発症した日(発熱の症状があらわれた日)は含まず、翌日を第1日目と数えます。

※解熱後3日とは・・・解熱を確認した日は含まず、翌日を第1日目として数えます。

もうすぐ年末年始

救急当番医療機関を事前に確認して、かかりつけ医の状況を把握しておいたり、保険証や乳児医療受給者証、母子手帳はすぐ取り出せるように持っておくなど、万が一の時の対策を整えておきましょう。

発熱・嘔吐・下痢の症状のある子どもたちが増え始めています。

37.5℃以上の発熱や咳等の症状がある場合は登園を控えるとともに、症状が治まり、解熱後24時間が経過するまでは、ご家庭で様子を見てください。また、嘔吐・下痢のある場合の園への登園は「下痢・嘔吐の症状が治まり普段の食事ができること」とされています。乳幼児の集団では流行しやすいので、蔓延を防ぐためにも下痢・嘔吐の症状があった場合は様子を見て、医療機関への受診などの対応を早めに行いましょう。